



ARBITRARY STUPID GOAL

タマラ・ショップシン 著
MCD×FSG(2017)

NYタイムズでも仕事をするイラストレーターがNYの日々を綴ったエッセイ。何気ない日常のエピソードから人生訓を受け取る。



FOOTSTEPS IN SILENCE

ジーン・クレール、
イナガキ・ナオコ・クレール 著
(2018)

ファッションジャーナリストのジーンが、写真家である妻ナオコと自費出版した写真集。移りゆく香港の街の一面が刻まれている。



JERUSALEM

ヨタム・オットレンギ、
サミ・タミミ 著
EBURY PRESS(2012)

イスラエルとパレスチナのシェフによる中東料理のレシピ本。料理だけでなく、街を写した写真も掲載。見知らぬ土地の空気も味わえる。



#20

Books for Travel Inspiration

眺めのいい本。

旅好きセレクターによる旅へ誘う本紹介。
今月は〈ポストラルコ〉のデザイナーである
マイク・エーブルソンさんが選書しました。

いい旅をしたいなら、
“適当な理由”を探せばいい。

偶然が旅を面白くする。そう教えてくれたのがNY在住のタマラ・ショップシンのエッセイ『ARBITRARY STUPID GOAL』です。残念ながら日本語訳はないのですが、この中にタマラのお父さんの「なんでもいいから、適当な理由をつくって旅にできればいい」という言葉が出てきます。行き当たりばったりの旅が導く、予想外の出会いや出来事。そのかけがえのなさ。いい旅とは何か？ と考えた時、最初に思い浮かんだのがこの本でした。

もうひとつ、「旅」と聞いて思い出すのが、移りゆく香港の街並みを撮った『FOOTSTEPS IN SILENCE』です。街は生き物だと再認識させてくれた写真集。あの街を旅したいと思った時、今行かないと見られない風景がある。香港の下町を彷徨っているような感覚になる写真ですが、それで知った気にならず、自ら足を運びたい。そんな気にさせられます。

最後は、未知なる国への興味を引き出してくれた中東の料理本。ずばり『JERUSALEM』と題された一冊で、料理を通して土地の匂いや空気まで感じられます。さまざまな問題を抱えている地域ですが、対立し合う民族でも、食文化に共通点がある。そんなことにも驚きました。この中で特に好きなのは、カボチャをのこぎりて切っている写真。のこぎりて!? と驚きつつ、その風景を見てみたいと思うのです。そして、頭に浮かぶのはタマラのお父さんの言葉。旅の始まりはやっぱ、こんな“適当な理由”でいいのだと思います。

今月のセレクター

マイク・エーブルソン
Mike Abelson

2000年、NYでエーブルソン・友理と共に〈ポストラルコ〉を立ち上げ、アイデアとクラフトマンシップに溢れた日用品を作る。